

レーザスキャナ

NL 2001U

取扱説明書

Ver. 1.1

インタフェース : USB キーボード



はじめに

このたびはレーザースキャナ NL2001U をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本取扱説明書には、NL2001Uの外部機器との接続方法および内部パラメータの設定方法について記載してありますので、初めてNL2001Uを使用する前に必ずお読みください。

ご注意

- (1) 本書の内容の全部または一部を無断で複製することは禁止されています。
- (2) 本書の内容については改良のため予告なしに変更することがありますのでご了承ください。
- (3) 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きのことございましたら巻末の弊社担当窓口までご連絡くださるようお願い申し上げます。
- (4) 本書に基づいてNL2001Uを運用した結果の影響については、前項(3)にかかわらず弊社では責任を負いかねますのでご了承くださいようお願い申し上げます。

梱包内容

製品がお手元に届きましたら、すぐに開梱して以下のものが揃っているかご確認ください。

もし、不足・破損などがありましたら、ご購入先の販売店または巻末の弊社担当窓口までご連絡ください。

➤ スキャナ本体	1
➤ 取扱説明書(本書)	1
➤ 保証書	1
➤ ユーザ登録書	1
➤ 修理依頼書	1

商標について

Microsoft[®] Windows[®]は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。その他の商標および登録商標は、所有各社に帰属します。

目次

安全上のご注意	1
スキャナ外観図	3
LED 表示について.....	4
トラブルシューティング	5
セットアップ.....	6
NL2001U(USB キーボードインタフェース)のセットアップ	6
設定手順	8
出荷時設定.....	9
Caps Lock の設定	10
読取り動作の設定.....	11
読取りモードの設定	11
トリガモード	11
連続モード	11
ターゲットモード	12
読取り可能時間設定	13
キャラクタ間ディレイ時間の設定.....	14
読取りブザー設定.....	15
読取り時ブザー音の ON/OFF 設定.....	15
読取り時ブザー音の音色設定.....	15
読取り時ブザー音長の設定	16
読取り時ブザー音量の設定	16
デコード多重チェック.....	17
紙面検知モード.....	18
オートトリガスタンドモード	18
反転バーコード	19
データフォーマットの設定.....	20
はじめに.....	20
プリフィックスの設定	21
データキャリア識別子について.....	21
データキャリア識別子の付加	21

データキャリア識別子とは…	22
コード別プリフィックス設定	23
サフィックスの設定	25
ターミネータについて	25
ターミネータの解除	25
ターミネータの設定	26
コード別サフィックス設定	27
読取りバーコードの設定	29
全コード種別読取許可(アドオン除く)	29
全コード種別読取禁止	29
コード 39 の設定	30
読取り許可	30
フル ASCII 変換	30
スタート/ストップキャラクタ転送	30
チェックキャラクタ検証と末尾文字の転送	31
読取り桁数範囲の指定	32
最小読取り桁数の指定	32
最大読取り桁数の指定	32
インタリーブド 2 オブ 5 の設定	33
読取り許可	33
チェックキャラクタ検証	33
読取り桁数範囲の指定	34
最小読取り桁数の指定	34
最大読取り桁数の指定	34
インダストリアル 2 オブ 5 の設定	35
読取り許可	35
チェックキャラクタ検証	35
読取り桁数範囲の指定	36
最小読取り桁数の指定	36
最大読取り桁数の指定	36
マトリックス 2 オブ 5 の設定	37
読取り許可	37
チェックキャラクタ検証	37
読取り桁数範囲の指定	38
最小読取り桁数の指定	38
最大読取り桁数の指定	38

UPC の設定.....	39
読取り許可	39
UPC-A 設定	40
先頭キャラクタとチェックキャラクタの転送	40
UPC-E 設定.....	41
先頭キャラクタとチェックキャラクタの転送	41
EAN/JAN の設定	42
読取り許可	42
定期刊行物コード(新雑誌コード)設定	42
チェックキャラクタの転送	43
ISBN 変換.....	44
コードバー (CODABAR / NW-7) の設定	45
読取り許可	45
スタート/ストップキャラクタ転送	45
チェックキャラクタの検証と末文字の転送	46
読取り桁数範囲の指定	47
最小読取り桁数の指定	47
最大読取り桁数の指定	47
コード 128 の設定.....	48
読取り許可	48
GS1-128(UCC/EAN128)フォーマット設定.....	48
変換モード1.....	49
変換モード2.....	50
変換モード3.....	51
変換モード4.....	52
読取り桁数範囲の指定	53
最小読取り桁数の指定	53
最大読取り桁数の指定	53
コード 93 の設定.....	54
読取り許可	54
読取り桁数範囲の指定	54
最小読取り桁数の指定	54
最大読取り桁数の指定	54
MSI/PLESSEY の設定	55
読取り許可	55
読取り桁数範囲の指定	55
最小読取り桁数の指定	55

最大読取り桁数の指定	55
GS1 DATABAR(RSS)の設定	56
読取許可	56
Composite フラグの設定	56
読取り桁数範囲の指定	57
最小読取り桁数の指定	57
最大読取り桁数の指定	57
PDF417 の設定	58
読取許可	58
マイクロ PDF417 の設定	58
読取り許可	58
保守メニュー	59
ファームウェアのバージョン確認	59
附属書1. フル ASCII バーコード	60
附属書2. 特殊キー対応バーコード	71
サンプルバーコード	74
改訂記録	77

安全上のご注意

ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。

本書では、製品を安全に正しくお使いいただくため、また機器の損傷を防ぐため、次の記号を用いて、守っていただきたい事項を示しています。

△警告	この表示の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
△注意	この表示の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

記号の意味：

△記号は、注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを示しています。

⊘記号は、禁止(してはいけないこと)であることを示しています。

●記号は、必ずして欲しい内容を示しています。

△警告

重要:システム設計者へ

- | | |
|--|---|
| ◆ 薬品の管理など、人命に影響を与える可能性があるシステムでは、データが誤った場合でも人命に影響を与える可能性が無いよう、冗長設計、安全設計には十分ご注意ください。 | ⊘ |
| ◆ 次のような場合は、すぐにホスト側の電源を切り、インタフェースケーブルのコネクタを抜いて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災や感電、事故または故障の原因になります。 <ul style="list-style-type: none">➢ 煙がでている場合、変なおいや音がしている場合➢ 製品の内部やすき間に、金属片や水などの異物が入った場合➢ 製品を落とすなどして動作しなくなった場合、ケースが破損した場合 | ● |
| ◆ 製品を分解したり、改造したりしないでください。
事故や故障の原因になります。 | ⊘ |
| ◆ 湿気の異常に多い場所や水滴のかかる可能性のある場所では使用しないでください。
火災や感電、故障の原因になります。 | ⊘ |
| ◆ 製品の内部やすき間に、金属片を落としたり、水などの液体をこぼしたりしないでください。
火災や感電、故障の原因になります。 | ⊘ |
| ◆ 濡れた手で、インタフェースケーブルなどを接続したり取り外したりしないでください。
感電の原因となることがあります。 | ⊘ |

⚠警告

NL2001U シリーズは、CDRH:Class2 / IEC 60825-1:Class2 のレーザー製品です。
危険ですので、以下のことは行わないでください。

- レーザビームを直視しないでください。
- レーザ照射窓をのぞき込まないでください。
- 人に向けてレーザー照射しないでください。



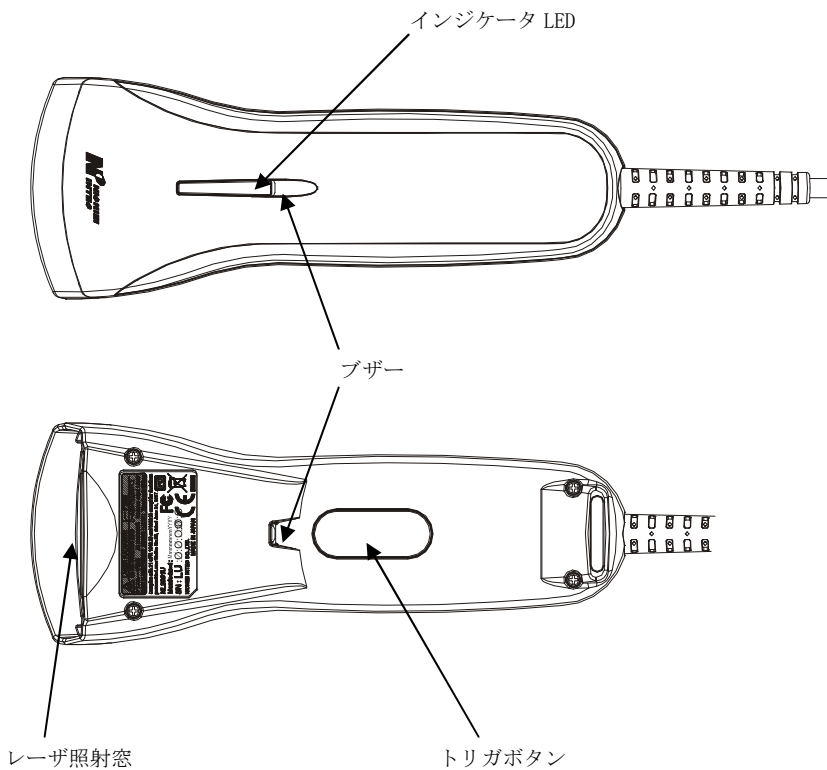
⚠注意

次のようなことは、絶対に行なわないでください。守らないと、火災や感電、事故または故障の原因となります。

- スキャナ本体やインタフェースケーブルの上に重たいものを置かないでください。また重いもの下敷きにならないようにしてください。
- スキャナ本体をたいたり落としたりして衝撃を与えないでください。
- 不安定な場所に置かないでください。
- インタフェースケーブルを無理に曲げたり、ねじったり、強く引っ張ったりしないでください。



スキャナ外観図



LED 表示について

3本の青LED、緑LED、赤LEDでスキヤナの活動状態を表示します。

LED の状態	LED インジケータの示す内容
オレンジ点灯	◆ 電源投入時。
赤・緑LED 消灯	◆ コンピュータからの電源の供給がない状態。 ◆ 待機状態。(トリガボタンは有効です。)
緑LED 点灯	◆ ターゲットモードでバーコード検知状態
赤LED 点灯	◆ 設定バーコード読取りエラー
緑LED1 回点灯	◆ バーコードを正常に読取り完了。 ◆ 設定バーコード読取り完了

トラブルシューティング

現象	考えられる原因	解決方法
スキャナにまったく反応がない・LEDが点灯しない・ブザー音が鳴らない・レーザが出ない。	◆ 電源が入っていません。	マニュアルの「セットアップ」を参照して、スキャナを接続してください。
	◆ ケーブルが断線しています。	接続が正しく行われているかご確認ください。
	◆ スキャナが故障しています。	
スキャナは機能しているが、バーコードを読取らない。	◆ 読もうとしているバーコードの種類が読取禁止になっています。	バーコードの読取許可を行ってください。
	◆ 読もうとしているバーコードの桁数が設定の範囲外になっています。	バーコードの桁数を設定してください。
読取音はするがデータが表示されない。	◆ ケーブルが断線しています。	接続が正しく行われているかご確認ください。
バーコードが桁落ちする。	◆ ホスト機器のデータ受信が追いついていません。	「キャラクタ間ディレイ時間の設定」を行ってください。

上記をお試しいただいても症状の改善が見られない場合は、故障の可能性ありますので、修理依頼書をご記入の上、修理依頼品と同梱で下記住所へお送りください。

尚、修理ご依頼時の送料はお客様ご負担になりますので、ご了承くださいませようお願いします。

送り先住所:

〒110-0016

東京都台東区台東3-42-5 日栄インテック御徒町第2ビル

日栄インテック株式会社 バーコードグループ 修理担当者 宛

電話 03-5816-7141

セットアップ

NL2001U(USB キーボードインターフェイス)のセットアップ

(1) ドライバのインストール

NL2001U を初めて PC に接続する際、「USB ヒューマン インターフェイス デバイス」ドライバのインストールが必要になります。ここでは、WindowsXP SP2 の画面を用いて、インストール手順を説明します。

- a) PC に電源を投入し、Windows を起動します。
- b) スキャナの USB コネクタを、PC の USB ポートに接続します。
※USB ハブは使用せず、スキャナを直接 PC に接続してください。USB ハブを使用した場合、スキャナの動作が不安定になったり、動作しなかったりする場合があります。弊社では、USB ハブの使用はサポート外とさせていただきます。
- c) スキャナ本体のブザーが「ピロッ」と 1 回鳴り、インジケータ LED がオレンジ色に 1 回点灯します。
※ブザー音がまったく鳴らなかった場合は、一旦 PC の電源を切り、ケーブルの接続を確認してやり直してください。それでも状況が改善されない場合は、巻末に記載の弊社担当窓口までご連絡ください。
- d) PC のディスプレイ画面のタスクトレイに「新しいハードウェアが見つかりました Barcode Device」のダイアログが数秒間表示された後、自動的にドライバのインストールが始まります。

※OS が WindowsMe 以前の場合は、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。その場合は、画面の指示に従って設定してください。



- e) ドライバのインストールが完了すると、「新しいハードウェアが見つかりました 新しいハードウェアがインストールされ、使用準備ができました。」と表示されます。



- (2) 読取りテストを行います。

文字入力できるアプリケーション(メモ帳など)を起動して、次のテストバーコードを読取ります。



カーソルの位置に「12345」と入力されていればテスト OK です。セットアップは完了しました。

この後、必要に応じて、各種パラメータを設定してください。

設定手順

- (1) 変更したいパラメータの記載されているページを開きます。
- (2) 『設定開始』バーコードを読取ります。ブザーが「ピロリッ」と1回鳴り、一定間隔で「ピッ、ピッ・・・」と鳴り続けます。
- (3) 変更したいパラメータの設定バーコードを読取ります。『設定開始』バーコードを読取ったときと同じブザー音で「ピロリッ」と1回鳴ります。
- (4) 『設定終了』バーコードを読取ります。『設定開始』バーコードと同じブザー音で「ピロリッ」と1回鳴ります。

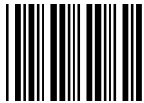
複数のパラメータを変更する場合は、1～3を同様に繰り返します。

※設定内容がわからなくなってしまった場合は、一度『出荷時設定』に戻してから、必要に応じてパラメータを変更してください。

出荷時設定

NL2001U を出荷時設定 (設定項目名に下線が付いている設定) に戻すには、下記の設定バーコードを
インターフェースにあわせて上から順に読み取ります。

※弊社出荷時には、日本語キーボードにあわせて動作するように、下記の設定を行った製品を出荷して
おりますので、前述のセットアップにしたがって接続の上ご使用いただけます。



設定開始



USB キーボードインターフェース



106(日本語)キーボード



設定終了



設定開始

Caps Lock の設定

『Caps Lock ON』に設定すると、バーコードデータのアルファベットの大文字を小文字に、小文字を大文字に変換します。PC の Caps Lock が ON になっていて、データの大文字と小文字とが逆になってしまう場合に有効です。

『自動 Caps Lock モード』を設定すると、キーボードの Caps Lock 状態にかかわらず、全て大文字で送られます。



Caps Lock OFF



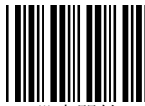
Caps Lock ON



自動 Caps Lock モード



設定終了



設定開始

読取り動作の設定

読取りモードの設定

トリガモード



トリガモード

トリガモードでは、トリガボタンを押している間、レーザ発光し読取りを行いません。バーコードを読取るとレーザ消灯します。また、バーコードを読取る前にトリガボタンを放すとレーザ消灯します。

※レーザダイオード保護のため、トリガボタンを押し続けていても約 2 秒でレーザ消灯します。

連続モード



連続モード

連続モードでは、バーコードを読み取ったあと、13 ページの『読取り可能時間設定』で設定されている時間が経過するまでレーザを消灯しません。レーザ照射している間は続けて読取りを行えます。

※連続モードに設定した状態で、2つのバーコードにレーザをあてた場合、交互に連続してバーコードを読取る場合がありますので、設定時にはご注意ください。

(次ページへ続く)



設定終了



設定開始

(前ページから)

ターゲットモード



ターゲット読取モード有効

(上の2つのバーコードを読取ってください)

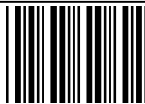


ターゲット読取モード無効

(上の2つのバーコードを読取ってください)

ターゲット読取りモードでは、トリガボタンを押している間はレーザを照射し、読取エリア内にバーコードを検知するとインジケータLEDが緑点灯します。読取りを行いたいバーコードの上にレーザを照射できた時点でトリガボタンを放すと読取りを行います。

※ターゲット読取モードを設定した状態で、18ページの『紙面検知モード』を設定すると、バーコード検知のみで読取りができなくなります。『紙面検知モード』を有効にする場合は、ターゲット読取モードは無効にしてください。



設定終了



設定開始

読取り可能時間設定

指定した時間内にバーコードを読み取れない時に自動的に読取り動作を停止する機能です。レーザーモジュールの保護のため、初期設定では2秒に設定されています。



0 秒



1 秒



2 秒



4 秒



6 秒



読取り時間 10 倍



設定終了



設定開始

キャラクタ間ディレイ時間の設定

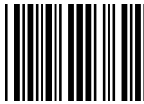
PC/ホスト機器の受信処理が遅い場合、1つ1つのキャラクタ送信間にディレイ(遅延)を発生させることで確実にデータを送信する機能です。



キャラクタ間ディレイなし



ディレイ 10 ミリ秒



ディレイ 20 ミリ秒



ディレイ 30 ミリ秒



設定終了



設定開始

読取りブザー設定

読取り時ブザー音の ON/OFF 設定

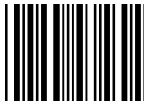


ON



OFF

読取り時ブザー音の音色設定



単音



複音



設定終了



設定開始

読取り時ブザー音長の設定



長 (100 ミリ秒)



中 (50 ミリ秒)

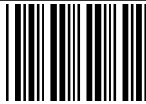
読取り時ブザー音量の設定



大



中



設定終了



設定開始

デコード多重チェック

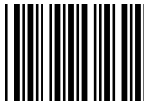
1回の読取り動作で、自動的に2回以上連続して読取り、その結果を照合することにより、データの信頼性を高めます。照合結果が規定回数一致した段階で、ホストにデータを転送します。



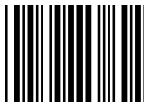
照合回数 0回



照合回数 1回



照合回数 2回



照合回数 3回



設定終了

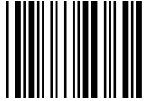


設定開始

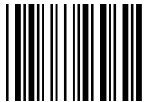
紙面検知モード

スキヤナの紙面検知(オートトリガ)モードの有効・無効を設定します。紙面検知モードが有効の状態では、レーザが点状態で照射され、紙面が検知されると通常のレーザ照射になり、読取り可能になります。

※動作モードで、12 ページの『ターゲットモード』を設定した場合、『紙面検知モード』を有効にすると、バーコード検知のみで読取りが行われなくなります。紙面検知モードでご利用の場合には、『ターゲットモード』を無効にしてください。



紙面検知を無効にする



紙面検知を有効にする

オートトリガスタンドモード

紙面検知を有効にした状態で、オートトリガスタンド検知を有効にすると、オートトリガスタンドに設置した場合のみ、紙面検知の状態になります。オートトリガスタンドから外して使用すると、通常の読取りモードの設定で選択した動作モードで動作します。



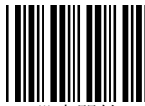
オートトリガスタンド検知を有効にする



オートトリガスタンド検知を無効にする



設定終了



設定開始

反転バーコード

通常、バーコードは白地に黒で印刷されますが、希に黒地に白で印刷されたものもあります。この黒地に白で印刷されたものを反転バーコードといい、読取りが難しいバーコードになります。

この設定は、反転バーコードに特化して、読取り易くする設定になります。ただし、『反転バーコード読取り』設定を施すと、通常のバーコードが読みづらくなります。



通常バーコード読取り



反転バーコード読取り



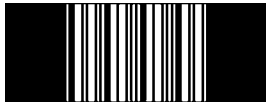
通常および反転バーコード読取り



通常バーコード読取り (反転読取り設定時用)



通常および反転バーコード読取り (反転読取り設定時用)



設定開始/設定終了 (反転読取り設定時用)



設定終了



設定開始

データフォーマットの設定

はじめに

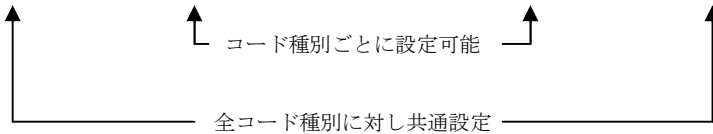
NL2001U は、各バーコード種別ごとに、任意のキャラクタをデータの前後に付加することができます。

プリフィックス(データ前に付加するキャラクタ)およびサフィックス(データ後に付加するキャラクタ)を、それぞれ最大 4 キャラクタずつ設定できます。

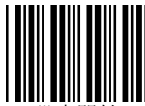
また、全コード種別に対して共通のコモンプリフィックスおよびコモンサフィックスを、それぞれ最大 8 キャラクタずつ設定できます。

データに対するコモンプリフィックス、コモンサフィックス、プリフィックス、サフィックスの付加位置は次の通りです

[コモンプリフィックス] [プリフィックス] [データ] [サフィックス] [コモンサフィックス]



設定終了



設定開始

プリフィックスの設定

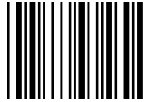
『設定開始』のバーコードを読んだあと、23 ページからの『コード別プリフィックス設定』バーコードを読み取り、巻末 60 ページからの『附属書1. フル ASCII バーコード』および『附属書2. 特殊キー対応バーコード』にて、設定したいキャラクタのバーコードを読み取ります。プリフィックスには最大 4 キャラクタまで設定できます。また、コモンプリフィックスには最大 8 キャラクタまで設定できます。

データキャリア識別子について

データキャリア識別子の付加

JIS X 0530:2003 に準拠したデータキャリア識別子を、コモンプリフィックス、コモンサフィックスおよびプリフィックス、サフィックスに付加することができます。

『設定開始』のバーコードを読んだあと、23 ページからの『コード別プリフィックス設定』を読み取り、続いて下記の『データキャリア識別子(AIM)を付加する』を読み取り、『設定終了』を読みます。



データキャリア識別子(AIM)を付加する

※プリフィックス、サフィックスとして付けるデータキャリア識別子は、プリフィックスおよびサフィックスの最大 4 キャラクタ、コモンプリフィックスおよびコモンサフィックスの最大 8 キャラクタに対し、1 キャラクタ分使用します。

(次ページへ続く)



設定終了



設定開始

(前ページから)

データキャリア識別子とは…

バーコードリーダが、読取ったデータを PC/ホスト機器に送信する際に付加する ID で、シンボル体系の種類、他、チェックキャラクタを検証したかどうか、送信データにはチェックキャラクタが含まれるのか含まれないのか、などの情報を表します。2000 年に ISO/IEC 15424 Data Carrier Identifiers (including Symbology Identifiers) として制定された国際規格で、日本では 2003 年に JIS X 0530 『データキャリア識別子(シンボル体系識別子を含む)』として JIS 規格化されました。

例) コード 39 の”C+O+D+E39”というバーコードを読み取り、データキャリア識別子を付加して送信する場合:

1. フル ASCII 処理をしないでデータ送信…]A0C+O+D+E39
2. フル ASCII 処理してデータ送信……………]A4Code39

データキャリア識別子の内容:

]:データキャリア識別子を示すフラグ

A:コード 39 を示すコードキャラクタ

0:『チェックキャラクタ検証もフル ASCII 処理もしない』ことを示す変更子キャラクタ

4:『フル ASCII キャラクタ変換を実行/チェックキャラクタは検証しない』ことを示す変更子キャラクタ

※詳しくは、JIS X 0530 『データキャリア識別子(シンボル体系識別子を含む)』をご参照ください。

(次ページへ続く)



設定終了



設定開始

(前ページから)

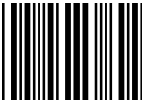
コード別プリフィックス設定



UPC-A



UPC-E



EAN13/JAN13



EAN8/JAN8



コード 39



全コード



UPC-A アドオン



UPC-E アドオン



EAN13/JAN13 アドオン



EAN8/JAN8 アドオン



マトリックス 2 オブ 5

(次ページへ続く)



設定終了



設定開始

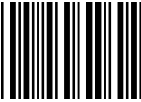
(前ページから)



インターリーブド2 オブ5



コード93



MSI/Plessey



GS1 Databar



コモンプリフィックス



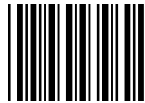
Codabar (NW7)



インダストリアル2 オブ5



コード128



IATA



PDF417



全プリフィックスのクリア

※プリフィックスを設定後、何も付加しない設定に戻すには、『設定開始』、『プリフィックスの設定』、『決定』、『設定終了』の順に読み取ります。



設定終了



設定開始

サフィックスの設定

『設定開始』のバーコードを読んだあと、27 ページからの『コード別サフィックス設定』を読み取り、巻末 60 ページからの『附属書1. フル ASCII バーコード』および『附属書2. 特殊キー対応バーコード』にて、設定したいキャラクタのバーコードを読み取ります。サフィックスには最大 4 キャラクタまで設定できます。また、コモンサフィックスには最大 8 キャラクタまで設定できます。

ターミネータについて

NL2001U では、ターミネータをサフィックスとして設定します。初期設定の状態では、ターミネータとして「Enter」が、全コード種別に対するサフィックスに設定されています。

したがって、新たにサフィックスの設定を行う場合は、最後に「Enter」を付加しないと、設定を行ったバーコード種別に対して「ターミネータなし」の状態になります。

※サフィックスに設定できるのは、ターミネータを含め 4 キャラクタ分ですので、キャラクタ数が不足する場合は、ターミネータをコモンサフィックスへ設定することをおすすめします。

設定例:コード 39 のサフィックスに「1234」を付加し、ターミネータに「Enter」を設定する。

『設定開始』→『全コード種別のターミネータ解除』→コード別サフィックス設定『コード 39』
→フル ASCII バーコード『1』、『2』、『3』、『4』→コード別サフィックス設定『コモンサフィックス』
→ターミネータ設定『Enter』→『設定終了』

ターミネータの解除

『設定開始』バーコードを読んだあと、『全コード種別のターミネータ解除』を読み取り、『設定終了』を読み取ります。



全コード種別のターミネータ解除(全サフィックスクリア)

(次ページへ続く)



設定終了



設定開始

サフィックスの設定(続き)

(前のページより)

ターミネータの設定

『設定開始』のバーコードを読んだあと、27 ページからの『コード別サフィックス設定』を読み取り、続いて下記のターミネータ設定バーコードを読み取り、最後に『設定終了』を読み取ります。



Enter



Tab



実行 (右 Ctrl)

(上の2つのバーコードを読み取ってください)



設定終了

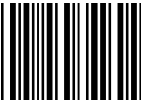


設定開始

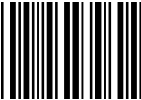
コード別サフィックス設定



UPC-A



UPC-E



EAN13/JAN13



EAN8/JAN8



コード 39



全コード



UPC-A アドオン



UPC-E アドオン



EAN13/JAN13 アドオン



EAN8/JAN8 アドオン



マトリックス 2 オブ 5

(次のページへ)



設定終了



設定開始

サフィックスの設定(続き)

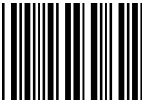
(前のページより)



インターリーブド2 オブ5



コード93



MSI/Plessey



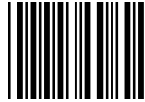
GS1 Databar



コモンサフィックス



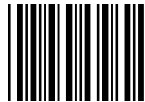
Codabar (NW7)



インダストリアル2 オブ5



コード128



IATA



PDF417

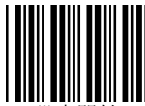


全サフィックスのクリア

※サフィックスを設定後、何も付加しない設定に戻すには、『設定開始』、『サフィックスの設定』、『決定』、『設定終了』の順に読み取ります。



設定終了



設定開始

読取りバーコードの設定

全コード種別読取許可(アドオン除く)

読取るバーコード種別がわからないときに設定してください。ただし、この設定を施すと、予期せぬバーコードを読取ったり、バーコードに近似した波形となるものをバーコードとして認識する場合がございます。

バーコードの種別がわかった時点で、読取るバーコード種別のみ読取許可の設定を施すことをおすすめします。



アドオンを除く全コード読取許可

全コード種別読取禁止

NL2001U には、バーコード種別ごとに読取りを禁止する設定バーコードがございません。読取りを行うバーコード種別のみを許可する場合には、このバーコードを読み取ったあと、個別に読取許可を行ってください。



全コード読取禁止



設定終了



設定開始

コード 39 の設定

読取り許可

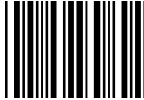


コード 39 の読取りを許可

フル ASCII 変換



変換する (コード 39 フル ASCII)



変換しない

スタート/ストップキャラクタ転送



転送する



転送しない



設定終了



設定開始

コード 39 の設定 (続き)

チェックキャラクタ検証と末尾文字の転送



チェックキャラクタ検証する



チェックキャラクタ検証しない



末尾文字を送信する



末尾文字を送信しない



設定終了



設定開始

コード 39 の設定 (続き)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要があります。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するコード 39 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※コード 39 では、最小読取り桁数を『01』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。



最小読取り桁数の指定

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するコード 39 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定



設定終了



設定開始

インタリーブド 2 オブ 5 の設定

読取り許可



インタリーブド 2 オブ 5 の読取りを許可

チェックキャラクタ検証



チェックキャラクタ検証する



チェックキャラクタ検証しない



末尾文字を送信する



末尾文字を送信しない



設定終了



設定開始

インターリード2 オブ5 の設定 (続き)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要があります。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するインターリード2 オブ5 のバーコードを読み取り、『設定終了』バーコードを読み取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※インターリード2 オブ5 では、最小読取り桁数を『01』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお勧めします。

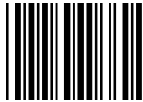


最小読取り桁数の指定

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するインターリード2 オブ5 のバーコードを読み取り、『設定終了』バーコードを読み取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定



設定終了



設定開始

インダストリアル 2 オブ 5 の設定

読取り許可



インダストリアル 2 オブ 5 の読取りを許可

チェックキャラクタ検証



チェックキャラクタ検証する



チェックキャラクタ検証しない



末尾文字を送信する



末尾文字を送信しない



設定終了



設定開始

インダストリアル 2 オブ 5 の設定 (続き)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要があります。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するインダストリアル 2 オブ 5 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※インダストリアル 2 オブ 5 では、最小読取り桁数を『01』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。

読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。



最小読取り桁数の指定

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するインダストリアル 2 オブ 5 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定



設定終了



設定開始

マトリックス 2 オブ 5 の設定

読取り許可



マトリックス 2 オブ 5 の読取りを許可

チェックキャラクタ検証



チェックキャラクタ検証する



チェックキャラクタ検証しない



末尾文字を送信する



末尾文字を送信しない



設定終了



設定開始

マトリックス2 オブ 5 の設定 (続き)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要がございます。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するマトリックス2 オブ 5 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※マトリックス2 オブ 5 では、最小読取り桁数を『01』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお勧めします。



最小読取り桁数の指定

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するマトリックス2 オブ 5 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定



設定終了



設定開始

UPC の設定

読取り許可



UPC の読取りを許可



UPC アドオン 2 桁 の読取りを許可



UPC アドオン 5 桁 の読取りを許可

(次ページへ続く)



設定終了



設定開始

UPC の設定 (続き)

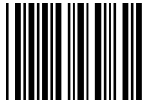
(前ページより)

UPC-A 設定

先頭キャラクタとチェックキャラクタの転送



UPC-A の先頭 0 なし チェックキャラクタ 転送



UPC-A の先頭 0 なし チェックキャラクタ 転送なし



UPC-A の先頭 0 あり チェックキャラクタ 転送



UPC-A の先頭 0 あり チェックキャラクタ 転送なし

(次ページへ続く)



設定終了



設定開始

UPC の設定 (続き)

(前ページより)

UPC-E 設定

先頭キャラクタとチェックキャラクタの転送



UPC-E の先頭 0 なし チェックキャラクタ 転送



UPC-E の先頭 0 なし チェックキャラクタ 転送なし



UPC-E の先頭 0 あり チェックキャラクタ 転送



UPC-E の先頭 0 あり チェックキャラクタ 転送なし



設定終了



設定開始

EAN/JAN の設定

読取り許可



EAN/JAN の読取りを許可



EAN/JAN アドオン 2 桁 の読取りを許可



EAN/JAN アドオン 5 桁 の読取りを許可

定期刊行物コード(新雑誌コード)設定

この設定は、「491～」で始まる JAN コードを必ずアドオンつきで送信するための設定です。この設定を施すことにより、「491～」で始まる JANコードのアドオン 5 桁を読み落とすことがなくなります

※この設定を行うときは、上記の『EAN/JAN アドオン 5 桁の読取りを許可』を設定してください。

『EAN/JAN アドオン 5 桁の読取り許可』を設定しないと「491～」で始まる JAN コードを読み取らなくなります。



「491～」で始まる JAN コードのアドオンを必須



設定終了



設定開始

JAN/EAN の設定 (続き)

チェックキャラクタの転送



JAN/EAN 13桁のチェックキャラクタ 転送する



JAN/EAN 13桁のチェックキャラクタ 転送しない



JAN/EAN 8桁のチェックキャラクタ 転送する



JAN/EAN 8桁のチェックキャラクタ 転送しない

(次ページへ続く)



設定終了



設定開始

JAN/EAN の設定 (続き)

(前ページから)

ISBN 変換

図書コードを読取ったときに、ISBN に変換して転送することができます。



ISBN 変換する



ISBN 変換しない



設定終了



設定開始

コーダバー(Codabar / NW-7)の設定

読取り許可



コーダバーの読取りを許可

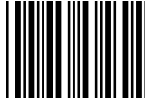
スタート/ストップキャラクタ転送



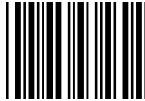
A, B, C, D/A, B, C, D で転送する



a, b, c, d/a, b, c, d で転送する



a, b, c, d/t, n, *, e で転送する



A, B, C, D/T, N, *, E で転送する



転送しない



設定終了



設定開始

コーダバー(Codabar / NW-7)の設定(続き)

チェックキャラクタの検証と末文字の転送



チェックキャラクタを検証しない



チェックキャラクタを検証する(モジュラス 10 ウエイト 1/ウエイト 2)



チェックキャラクタを検証する(モジュラス 11)



チェックキャラクタを検証する(モジュラス 16)



チェックキャラクタを検証する(7 チェック)



末文字を転送する



末文字を転送しない



設定終了



設定開始

コードバー(Codabar/ NW-7)の設定(続き)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要があります。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するコードバー(Codabar/NW7)のバーコードを読み取り、『設定終了』バーコードを読み取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※コードバー(Codabar/NW7)では、最小読取り桁数を『01』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお勧めします。



最小読取り桁数の指定

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するコードバー(Codabar/NW7)バーコードを読み取り、『設定終了』バーコードを読み取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定



設定終了



設定開始

コード 128 の設定

読取り許可



コード 128 の読取りを許可

GS1-128(UCC/EAN128)フォーマット設定

コード 128 のバーコードで、スタートキャラクタに続く第一シンボルキャラクタが「FNC1」のとき、GS1-128(UCC/EAN128)のバーコードとみなしてデータを転送するか、単なるコード 128 のバーコードとしてデータを転送するかを設定できます。

GS1-128(UCC/EAN128)として転送する場合、4 種類の変換モードを選択できます(次頁以降)。ただし、GS1-128 変換モードを有効にすると、GS1-128 フォーマット以外のコード 128 は読取無効になります。

GS1-128 変換モードを有効にした際に、通常のコード 128 も読み取りたい場合は、下記バーコードにて「GS1-128 フォーマット以外のコード 128 有効」に設定します。



GS1-128 有効時、GS1-128 フォーマット以外のコード 128 有効

設定変更後、再び出荷時設定に戻すには、下記バーコードにて「GS1-128 フォーマット以外のコード 128 無効」に設定します。



GS1-128 有効時、GS1-128 フォーマット以外のコード 128 無効



設定終了



設定開始

GS1-128 変換モード 1～4 のいずれかを有効にした後で、変換モードを無効にしたい場合は、下記バーコードにて「GS1-128(UCC/EAN128)無効」に設定します。



GS1-128 (UCC/EAN128) 無効

変換モード1

GS1-128 の AI を () で括って出力するモードです。

出力例

ヒューマンリーダブル

(01) 14912345678904 (17) 990101 (30) 1000 (10) 1234567890123456

↓

出力データ

(01) 14912345678904 (17) 990101 (30) 1000 (10) 1234567890123456 “ENT”

『設定開始』のあと、『GS1-128 変換モード 1』を読み取り、『設定終了』を読み取ります。



GS1-128 変換モード 1



設定終了



設定開始

変換モード2

読取りデータから AI を取除き、指定した区切り文字で出力します。

小数点の指定があるデータを読取った場合は、小数点を付加して出力されます。

出力例

ヒューマンリーダーダブル

(01) 14912345678904 (17) 990101 (30) 1000 (10) 1234567890123456



出力データ

14912345678904 “TAB” 990101 “TAB” 1000 “TAB” 1234567890123456 “ENT”

※区切り文字に”TAB”を設定

『設定開始』のあと、下記の設定バーコードを順番に読み取ります。



GS1-128 変換モード2



区切り文字設定

『区切り文字設定』を読み取ったあとは、60 ページからの『附属書1. フル ASCII バーコード』、『附属書2. 特殊キー対応バーコード』から区切り文字に使うキャラクタを読み取って、『設定終了』を読み取ります。



設定終了



設定開始

変換モード3

先頭の FNC1 を”]C1”に変換、2 つ目以降の FNC1(可変長データの終端を”Ctrl+”)に変換します。
出力データに AI は含まれます。

出力例

ヒューマンリーダーダブル

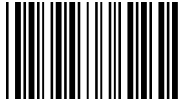
(01) 14912345678904 (17) 990101 (30) 1000 (10) 1234567890123456

↓

出力データ

”]C1” 011491234567890417990101301000 ”Ctrl+” 101234567890123456

『設定開始』のあと、『GS1-128 変換モード 3』を読み取り、『設定終了』を読み取ります。



GS1-128 変換モード 3



設定終了



設定開始

変換モード4

2 つ目以降の FNC1 を任意のキャラクタに変換して出力します。

出力例

ヒューマンリーダーダブル

(01) 14912345678904 (17) 990101 (30) 1000 (10) 1234567890123456



出力データ

011491234567890417990101301000 ”F1” 1234567890123456

※2 つ目の FNC1 に”F1”を設定

『設定開始』のあと、下記の設定バーコードを順番に読み取ります。



GS1-128 変換モード 4



先頭”]C1”を出力しない

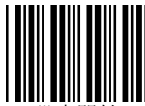


FNC1 変換キャラクタ設定

FNC1 変換キャラクタ設定を読み取ったあとは、60 ページからの『附属書1. フル ASCII バーコード』、『附属書2. 特殊キー対応バーコード』から区切り文字に使うキャラクタを読み取って『設定終了』を読み取ります。



設定終了



設定開始

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要がございます。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するコード 128 のバーコードを読み取り、『設定終了』バーコードを読み取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※コード 128 では、最小読取り桁数を『01』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお勧めします。



最小読取り桁数の指定

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するコード 128 バーコードを読み取り、『設定終了』バーコードを読み取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定



設定終了



設定開始

コード 93 の設定

読取り許可



コード 93 の読取りを許可

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要があります。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するコード 93 のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※コード 93 では、最小読取り桁数を『01』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお勧めします。



最小読取り桁数の指定

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するコード 93 バーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定



設定終了



設定開始

MSI/Plessey の設定

読取り許可



MSI/Plessey の読取りを許可

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要があります。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定する MSI/Plessey のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※MSI/Plessey では、最小読取り桁数を『01』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお勧めします。



最小読取り桁数の指定

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定する MSI/Plessey バーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定



設定終了



設定開始

GS1 Databar(RSS)の設定

読取許可



GS1 Databar Omnidirectional (RSS 14) の読取りを許可



GS1 Databar Limited (RSS Limited) の読取りを許可



GS1 Databar Expanded (RSS Expanded) の読取りを許可

Composite フラグの設定

EAN.UCC Composite (合成シンボル)にて、Composite フラグを無視して、DataBar(1次元シンボル部分)のみ読み取ることができます。



Composite フラグを無視する



Composite フラグを無視しない



設定終了



設定開始

GS1 Databar の設定(続き)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。

桁数の設定には、設定したいバーコード種別で、設定する桁数のバーコードをご用意いただく必要がございます。

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最小桁数に指定するGS1 Databar のバーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。



最小読取り桁数の指定

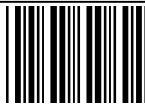
最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』バーコードに続いて、ご用意いただいた最大桁数に指定するGS1 Databar バーコードを読取り、『設定終了』バーコードを読取ります。

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定



設定終了



設定開始

PDF417 の設定

読取り許可



PDF417 の読取りを許可

マイクロ PDF417 の設定

読取り許可



マイクロ PDF417 の読取りを許可



設定終了



設定開始

保守メニュー

ファームウェアのバージョン確認



バージョン確認

『設定開始』バーコードに続いて『バージョン確認』バーコードを読取ると、ファームウェアのバージョンが、データとしてスキャナから転送されます。『設定終了』バーコードを読取ってください。

※この取扱説明書は、ファームウェアバージョン『Ver1.16 10/16/2007』以降に対応しています。



設定終了



設定開始

附属書1. フル ASCII バーコード



Ctrl+@



Ctrl+A



Ctrl+B



Ctrl+C



Ctrl+D



Ctrl+E



Ctrl+F



Ctrl+G



Ctrl+H



Ctrl+I



Ctrl+J



Ctrl+K



設定終了

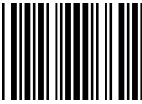


設定開始

(続き)



Ctrl+L



Ctrl+M



Ctrl+N



Ctrl+O



Ctrl+P



Ctrl+Q



Ctrl+R



Ctrl+S



Ctrl+T



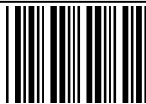
Ctrl+U



Ctrl+V



Ctrl+W



設定終了

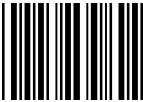


設定開始

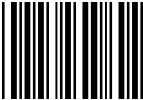
(続き)



Ctrl+X



Ctrl+Y



Ctrl+Z



Ctrl+[



Ctrl+\



Ctrl+]



Ctrl+^



Ctrl+_



スペース(空白)



!



“



#



設定終了



設定開始

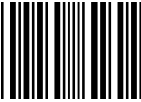
(続き)



\$



%



&



'(シングルクオート)



(



)



*



+



, (カンマ)



-(ハイフン)



.



/



設定終了



設定開始

(続き)



0



1



2



3



4



5



6



7



8



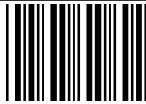
9



:



;



設定終了



設定開始

(続き)



<



=



>



?



@



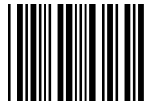
A



B



C



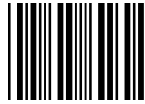
D



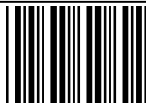
E



F



G



設定終了

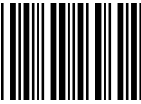


設定開始

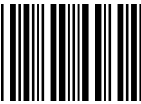
(続き)



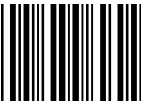
H



I



J



K



L



M



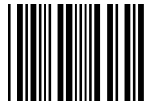
N



O



P



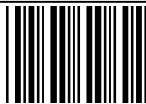
Q



R



S



設定終了

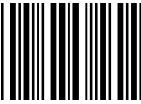


設定開始

(続き)



T



U



V



W



X



Y



Z



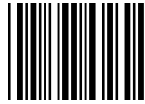
[



¥



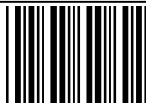
]



^



_(アンダーバー)



設定終了



設定開始

(続き)



` (バックオート)



a



b



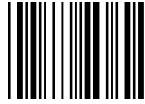
c



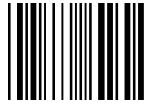
d



e



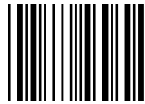
f



g



h



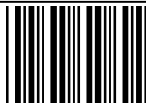
i



j



k



設定終了

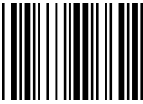


設定開始

(続き)



l



m



n



o



p



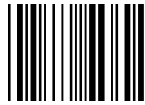
q



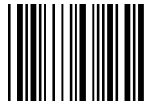
r



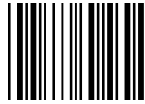
s



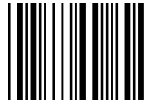
t



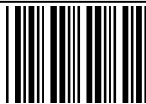
u



v



w



設定終了



設定開始

(続き)



x



y



z



{



|



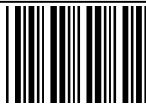
}



~



Ctrl+BackSpace



設定終了

附属書2. 特殊キー対応バーコード



F1



F2



F3



F4



F5



F6



F7



F8



F9



F10



F11



F12



↑



↓

(続き)



←



→



Caps Lock



Tab



Return



テンキー Enter



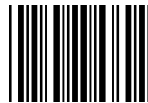
Alt 開放



Alt 押下



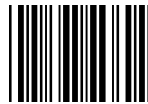
Insert



Home



End



Delete

(続き)



Page Up



Page Down



Backspace



左 Ctrl 押下



左 Ctrl 開放



右 Ctrl 押下



右 Ctrl 開放



Shift 開放



Shift 押下



Esc



コード識別子(AIM)



バーコード桁数(1D=2 桁、2D=6 桁)



バーコード桁数(1D,2D=6 桁)

サンプルバーコード

JAN / EAN-13



JAN / EAN-13 + アドオン 5 桁(新雑誌コード)



JAN / EAN-8



UPC-A



UPC-E



コード 39(チェックキャラクタなし)



コード 39(チェックキャラクタ付)



コード 39(フルアスキー)



コーダバー(チェックキャラクタなし)



a123456789a

コーダバー(チェックキャラクタ付)



a123451a

コード 128



NICHIEI-INTEC

GS1-128(EAN/UCC-128)



(21) 060428 (11) 060525

インタリーブド 2 オブ 5



0123456

ITF-14



14560151181353

GS1 Databar Omnidirectional



10 815684 00878

GS1 Databar Limited



(01) 0 0614141 00001 2

GS1 Databar Expanded Stacked



(01) 0 0614141 00001 2

PDF417



マイクロ PDF417



改訂記録

改訂番号	改訂年月、内容
Ver 1.0	2008年5月(初版)
Ver 1.0a	2010年2月(巻末の所在地変更)
Ver 1.1	2010年4月 p. 5 修理返送先の変更 p. 26 「(右 Ctrl)」を追加 p. 48～52 「GS1-128(UCC/EAN128)フォーマット 設定」を改定 p. 56 「Composite フラグの設定」を追加 「(次ページへ続く)」を削除 p. 57 「(前のページより)」を削除

日栄インテック株式会社

開発事業部 バーコードグループ

〒110-0016 東京都台東区台東 3-42-5

日栄インテック御徒町第2ビル

TEL 03-5816-7141 FAX 03-5816-7140

E-Mail info@barcode.ne.jp